

Climb

クライム

川野小児医学奨学財団

2024年度 事業報告書



みんな
のりこえる。

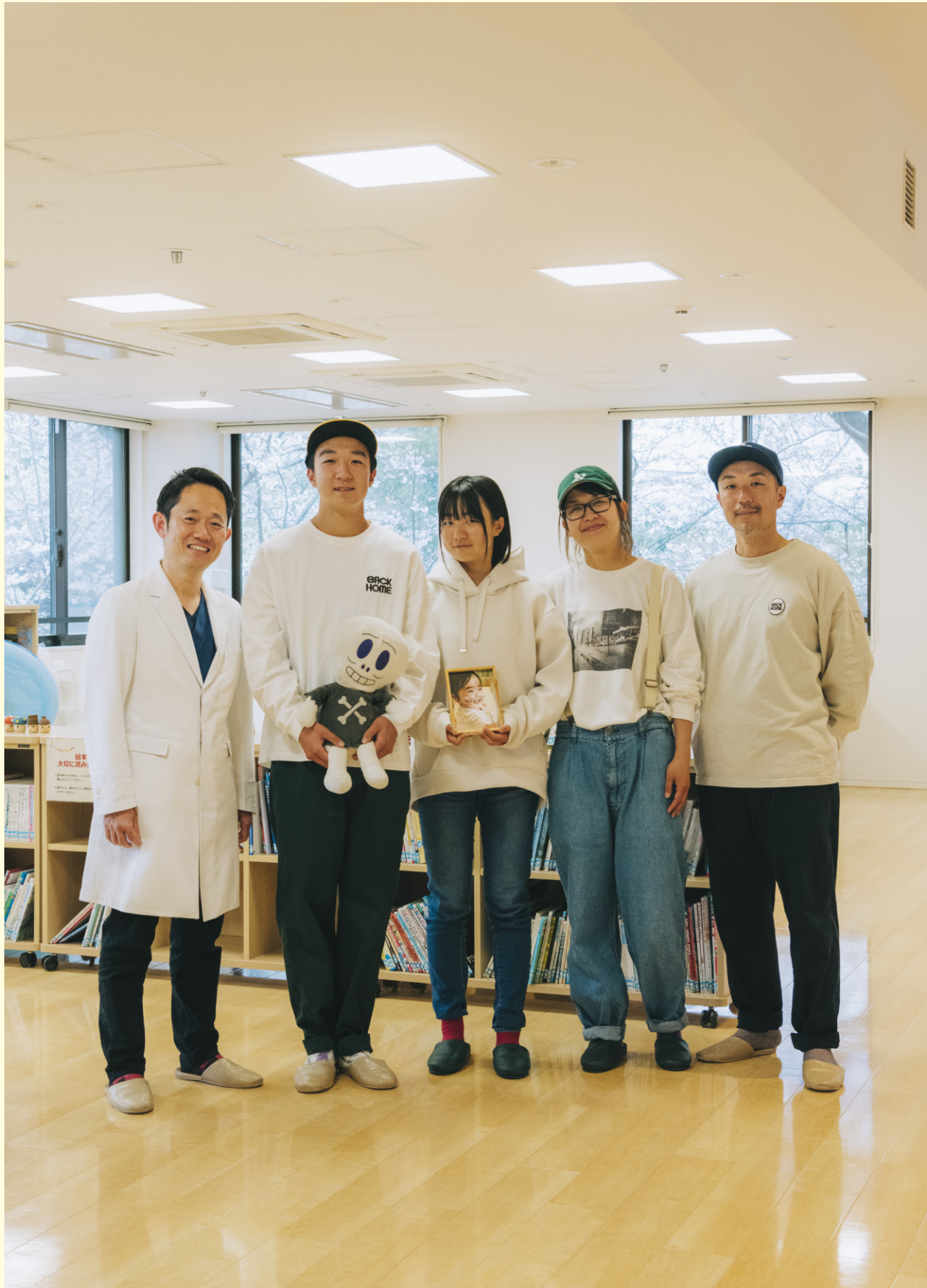
みんなでのりこえる。

川野小児医学奨学財団は、病気で息子を亡くした父親の
「病に苦しむ子どもを減らしたい」という思いからはじまりました。
1989年に設立され、30年以上にわたって、
小児医学の支援に取り組んでいます。

子どもの病気に関する研究への助成や、
小児科医を目指す医学生への奨学金給付、
小児医療施設のサポートなどに取り組むなかで感じてきたのは、
子どもをとりまく問題の解決には社会全体の力が必要だということです。
医学が進歩し、乳幼児の死亡率は減っていますが、
いまだ解明されない小児の難病の存在や
特別なケアが必要な子どもの増加など問題は尽きません。

さまざまな立場や役割の人たちといっしょに、
子どもたちが直面している問題を、みんなでのりこえる。
私たちは一歩ずつ、歩みをすすめてまいります。





interview

自分たちらしい選択で 家族との最期の時間を過ごす

原田 悠平（父） 梢（母） 恩（兄） 倅（姉） 恵 余谷 暢之医師

4歳7ヶ月で指定難病である乳児発症STING関連血管炎で亡くなった原田恵ちゃん。壮絶な治療を続けた中で、家族が最終的に選んだのは「緩和ケア」だった。緩和ケア病床で家族揃って過ごした最期の時間が今の家族の生きる糧となり、前に進む力になっている。

「治らない風邪をひいているような状態が生後半
くらいまで続き、度々近所の病院で診てもらっていま
した。体の成長も気になり、紹介状を書いてもらって
大きな病院を受診したところ即入院に。その場で『し
ばらくは帰れないよ』と告げられてしまって」（梢さん）

その時、恵ちゃんはまだ生後7ヶ月。数ヶ月入院したものの良くならず、国立成育医療研究センターに転院。1歳1ヶ月で肝臓の移植手術を受けたが、状況は好転しない。あらゆる診療科で診てもらうも、当時は原因もわからず、謎の全身疾患に悩まされ続ける。少し調子が良くなっても維持できず、それを3年近く繰り返す中で恵ちゃんの体調はどんどん悪化していった。「当時小学生だった兄の恩と姉の倅はガラス越しでしか恵に会えません。私たち親は恵に付きっきりで、家族揃って過ごすなんて到底無理。みなさん全力で治療にあたってくれましたが、なかなか先も見えなくて。『これでいいのかな』と思ったこともありました」（梢さん）

体調が急変してICUに運ばれた時は家族全員が「もうダメだ」と覚悟したが、奇跡的に持ち直す。しかしその後の恵ちゃんは塞ぎ込んで人を寄せ付けなくなり、自分の意思で真っ暗な部屋で過ごすようになった。「誰かが近寄ると物を投げたりして、心も荒れてしまっていた。まだまだ小さいのに、本当に辛くて。そんな姿を見て、私たちの考え方も変わっていったんです」（梢さん）

とにかくできることをしようと、入院してからの写真

やノートの整理を始めた梢さん。「こんな闘い方をしてきたんだな」と振り返るにつれ、一つの思いが強くなっていったという。「このまま恵が亡くなったら、絶対に後悔する。治療ではない何か次に進むことで、もっとできることがあるはずだ」。

そうして行き着いたのが、緩和ケア病床だった。

緩和ケアとは、最期までその子らしく過ごすために体や気持ちの症状を緩和して、本人とその家族が穏やかに過ごせるよう支援する医療のこと。悠平さんがその決断を振り返る。

「闘病生活が始まった時から考えていたのは、病気の子と親だけの闘いではなく、『一家で恵の病気と向き合いたい』ということでした。だからこそ、家族全員で残りの時間をいかに楽しく、そして恵が楽に過ごすにはどうしたらいいだろうと考えるようになったのです」（悠平さん）

国立成育医療研究センター内に開設されているもみじの家の緩和ケア病床では、生活を優先しながらも病院と同じような医療体制で支える環境が整っている。積極的な治療は行わないかわりに、苦痛症状の緩和を行いながら、最期までその子らしく過ごせるよう支援を行う場所だ。そこで原田家の5人は「当たり前のことを当たり前に行える」普通の家族の時間を過ごした。

「一緒に部屋に家族がいて、テレビを見たり、ご飯を食べたり。夜は一緒に寝て、朝に目が覚めたら横に家族がいる。普通の家族であれば当たり前のことがやっとできたんです」（悠平さん）

「恩はもみじの家から野球の練習に行くし、倅と恵はささいな姉妹喧嘩をしたりね」（梢さん）

最後にいた病棟では人との関わりを全て嫌がっていた恵ちゃんだったが、「まるで別人になったみたいだったね」と4人が口を揃えるように、もみじの家に移ったその日からガラッと変わったのだという。「他の子どもが何かやっているところを自分から見に行ったり、交わったりすることも。重い病気を患っていても子どもはまだまだ成長するんだなと思ったし、環境って大事だと気付かされましたね」と悠平さん。

もみじの家で恵ちゃんを担当した余谷医師や専門スタッフのサポートもありがたかった。「投薬なども苦しまない絶妙なタイミングでスツとやってくれて。皆さんのサポートに本当に助けられたし、おかげで前に進むことができました」と梢さん。

もみじの家で迎えた恵ちゃんの最期の日の朝も、倅さんとのちょっとした言い争いの喧嘩から始まる「いつもの原田家の日常」があった。

闘病生活を振り返り、4人が今考えていることとは。「闘病生活って当事者たちだけで成り立っているものではなくて、いろいろな人たちが支えてくれているんです。娘を亡くして寂しい思いをしましたが、だからこそ『じゃあ自分たちにはこれから何ができるだろうか』と強く考えるようになりました」（悠平さん）

「恵が亡くなってからの7年間、『恵のような子がいたんだから自分たちももっと頑張れるよね』という問いかけをずっとしてきたように思います。2人の子どもたちも、当たり前のように『甘い方の道を選んではいけない』と考えているはず」と梢さん。それを聞いた恩くんは「当時は小学生だったけど、恵を見ていて『こんなに頑張っている人がいるんだ』と気付かされました。だからこそ、野球と勉強のどちらかではなく、両方やりたいと思うようになった」と話す。実際に恩くんは恵ちゃんが亡くなってからは受験勉強に励み、自分の意思で新たな進路を切り開いた。

クラブチームで野球に打ち込む倅さんも、「恵ちゃんに比べたら、自分が大変だと思っていることはもっとも大変じゃない。もっと頑張らなきゃいけない」と自らを奮い立たせる毎日だ。

そして悠平さんと梢さんの2人も、「今こそ」との思いで子どもたちとの時間を全力で楽しんでいる。

余谷医師は、医療における緩和ケアについて、次



のように話す。

「原田家が緩和ケア病床を使った最初のケースだったので、私にとっても道標となる貴重な経験となりました。ただ、理想の緩和ケアというものはないと思っています。なぜなら大切にしたいことは家族によって違うし、病状も、置かれた状況も異なるからです。医療において治療は大切な目標ですが、治療が困難な病気や慢性疾患を持つ子どもにとっては、医療におけるゴールは治療ではなく『いかにその子らしく過ごせるか』になります。医学的な最善が本人や家族の最善にならない可能性が出てきた時が、緩和ケアのスタート。医師として本人や家族としっかりと対話し、その思いに近づくことができたらと思っています」

闘病後に家族が離散してしまうことは少なくないという。それに対し悠平さんは次のように笑顔で話す。「確かに私たちもそれくらい大変な時間を過ごしたと思います。でも、成育の皆さんとワンチームになれたし、すごく支えてもらいました。何より、ケアも含めた闘病生活において『自分たちらしい選択』ができたからこそ、後悔なく、今も前向きに毎日を過ごせているのだと考えています」

余谷暢之先生
国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科診療部長

2004年大阪市立大学医学部卒。2014年に大阪市立大学大学院医学研究科博士課程修了(公衆衛生学)。小児救急、小児総合診療に従事した後、成人の緩和ケア診療に携わり、国立成育医療研究センターの緩和ケア部門を立ち上げる。2018年より現職。



Annual Report 2024

事業内容と2024年度のご報告

すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長してほしい。そんな社会を目指し、川野小児医学奨学財団は6つの事業を行っています。2024年度の活動を数値とともにご報告します。

1 研究助成  51名 7,444万円	小児医学・医療の進歩とともに救われる命は増え、子どもたちの健康は確実に守られてきています。しかし、解決すべき問題はまだまだたくさんあります。当財団では、小児疾患の原因究明・治療・予防などに関する研究の発展を支援するため、1990年から小児医学研究者に対して助成金の交付を行っています。2007年には、若手研究者の活躍を後押しするために40歳以下の研究者を対象とする若手枠も設けました。一般枠は1人300万円、若手枠は1人100万円を上限として、助成金を交付しています。
2 奨学金給付  37名 3,084万円	「小児科医になって、子どもたちを支えたい」そんな高い志を持ちながらも、経済的な理由によって進学を諦めてしまう学生がいます。当財団では1990年から、小児医学を志す医学生および小児医学研究に従事している大学院生に対して奨学金事業を行っています。2021年からは埼玉県に加え、千葉県内の高校を卒業した方も対象としています。また、昨今の物価上昇をかんがみ、2023年からは月額を7万円に上げ、正規の最短修業年限以内において給付をします。奨学生は当財団開催のイベントを通じて、実際に活躍している小児医学研究者から直接学ぶこともできます。
3 小児医学 川野賞  3名 300万円	財団設立10周年を記念して、1999年に創設した小児医学川野賞。優れた業績を挙げ、学術の進歩に貢献した小児医学研究者を表彰しています。“小児医学のさらなる発展を”との願いから、受賞後も小児医学への貢献が期待される55歳以下の研究者を対象としています。受賞者には賞状、賞金100万円とトロフィーが贈呈されます。創設当初は基礎医学、臨床・社会医学の2分野からの選出でしたが、2019年からは基礎医学、臨床医学、社会医学の3分野にて選出をしています。

4 医学会助成  16件 740万円	熱心な研究者が集い、研究発表や意見交換を行う医学会。当財団では、小児医学におけるさまざまな専門分野の発展を願い、1992年から日本国内で開催する小児医学に関する医学会に対して助成金を交付しています。現在では1件70万円を上限として助成しており、毎年多くの医学会よりご申請をいただいています。小児医学研究者の知識の共有や技術の進歩を支える取り組みとなっています。
5 小児医療 施設支援  21件 2,919,834円	入院や入所をしている子どもたちにとっては、病院や入所施設がまさに生活の場。そういった子どもたちのQOL(生活の質)を高めることは大切ですが、医療機関や施設がそのための予算を十分に確保するのは簡単ではありません。そこで1995年から、設備やボランティア活動を充実させるための費用に対して助成金を交付しています。2022年からは埼玉県に加え千葉県内の施設も対象とし、1件15万円を上限として、おもちゃや絵本、オンライン面会用の通信機材などの購入にお使いいただいています。
6 ドクターによる 出前セミナー  14件	子どもたちの命や健康を守るために、学校現場や保育園、幼稚園などにおいても、医学的に適切な対応が求められるようになってきています。財団設立30周年を記念して2019年にスタートしたこの事業では、学校や保育園などで小児保健に従事する方たちが開催する研修会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣しています。2021年からは、養護教諭が実施する研修会に加え、就学前教育・保育施設の看護職従事者が実施する研修会にまで講師派遣対象を拡大しています。

1 研究助成

日本でも数少ない小児医学に特化した研究支援



研究費の不足に悩む小児医学研究者は多く、本助成金の申請数は年々増え続けています。2024年度は一般枠60名・若手枠43名の応募がありました。選考委員会の結果、一般枠25名・若手枠26名の計51名の研究者に総額74,440千円の助成金を交付しました。2025年3月1日には都内会場にて、助成研究成果発表会を開催しています。

交付者一覧

■ 一般枠25名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
高尾 知佳	岡山大学学術研究院医歯薬学域組織機能修復学「ヒトiPS細胞由来軟骨前駆細胞を利用した先天性気管狭窄症に対する新規治療法の開発」	3,000
中釜 悠	大阪公立大学医学研究科「空間オミクスで紐解く胎児・乳幼児心筋症の分子病理特性」	3,000
田村 彰広	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野「抗SIRPa抗体を用いた食育機能制御を応用した難治性神経芽腫・骨肉腫の新規治療開発研究EZH2阻害剤によるGD2発現上昇メカニズムの解明ならびに抗GD2抗体の効果増強・適応拡大を目指した治療開発研究」	3,000
工藤 耕	弘前大学大学院医学研究科小児科学講座「ランゲルハンス細胞組織球症の起源細胞に着目した分子機構の解明」	3,000
松本 歩	自治医科大学人類遺伝学研究部「女児に発症するX染色体潜性遺伝疾患の出生前診断法の確立と発症機序の解明」	3,000
渡辺 栄一郎	群馬県立小児医療センター外科「病理標本網羅的タンパク解析によるHirschsprung病ならびにHirschsprung病類縁疾患の新規診断バイオマーカー探索と病態解明及び新規治療法探索研究」	3,000
勝俣 良紀	慶應義塾大学医学部スポーツ医学総合センター「小児心電図から心房中隔欠損症を高精度に検出する人工知能の開発」	3,000
小島 令嗣	山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座「アトピー性皮膚炎の長期経過と血清プロテオミクスの統合解析によるエンドタイプの同定」	3,000
鏡 雅代	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部臨床内分泌研究室「Targeted long read sequencingを用いたX染色体上の遺伝子発現制御機構の解明：X染色体潜性遺伝病発症機構、X染色体複雑構造異常常症などの病態解明を目指して」	2,400
川内 大輔	国立精神・神経医療研究センター病態生化学研究部「ヒトES細胞由来の脳オルガノイドを用いた小児脳腫瘍モデル開発による新規治療標的の同定」	2,400
大野 聖子	国立循環器病研究センターメディカルゲノムセンター「KCND3変異を原因とする難治性てんかんに対する新規治療薬の開発」	2,400
志村 優	千葉県こども病院代謝科「ゴーシェ病に対するミトコンドリア機能改善および中枢神経を標的にした新規治療法の開発」	2,400
岩谷 壮太	兵庫県立こども病院新生児内科「早産児において遷延する高アンバウンドビリルビン血症の病態解明・溶血および血清アルブミンのビリルビン結合能に着目した解析」	2,400

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

■ 若手枠26名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
友滝 清一	京都大学医学部附属病院小児科「胎児発育不全の発症障害とメタボリックシンドロームに対する新たな予防戦略の開発」	1,000

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
尾池 貴洋	群馬大学重粒子線医学推進機構重粒子線医学研究センター「骨軟部悪性腫瘍に対する重粒子線治療の個別最適化を目指した生物・物理・臨床研究」	1,500
白戸 恵也	国立感染症研究所ウイルス第3部第5室「呼吸器上皮細胞の気液界面培養系を用いた呼吸器ウイルス持続感染性の検討」	1,500
吉田 健一	国立がん研究センター研究所がん進展研究分野「新たな研究材料を用いたダウン症候群に合併する急性巨核芽球性白血病の網羅的遺伝子解析」	1,500
武谷 立	宮崎大学医学部「出生後の心筋細胞数の維持機構から挑む成人先天性心疾患の予後改善」	1,500
小林 朋子	東北大学東北メディカル・メガバンク機構「児童における日本語の読みの困難さの病態解明」	1,500
上阪 直史	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科「神経細胞と脳腫瘍間のシナプス形成の理解を基盤とした小児脳腫瘍の新しい治療戦略の研究開発」	1,500
加藤 大志	東京大学大学院医学系研究科病因・病理学専攻微生物学「改変シアロ糖鎖を用いた小児ウイルス感染症に対する治療薬開発研究」	1,500
臼井 桂介	順天堂大学保健医療学部診療放射線学科「小児・AYA世代の全脳全脊髄照射における妊孕性温存を目指したX線・陽子線治療計画法と人工知能による子宮・卵巣線量の予測モデルの構築」	1,500
柴 直子	信州大学医学部再生医科学教室「筋ジストロフィー心筋症におけるナトリウム利尿ペプチド産生障害のメカニズムの解明と細胞移植治療の検討」	1,500
城田 千代栄	名古屋大学医学部附属病院「血清及び濾紙血中 matrix metalloproteinase-7のLC/MSによる定量法の構築と胆道閉鎖症のバイオマーカーとしての臨床応用検証」	1,500
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学研究科発達小児科学「ダウン症候群の胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明」	1,300
村上 雅一	鹿児島大学病院小児診療センター小児外科「未曾有の少子化時代における開放手術・内視鏡外科手術双方の外科医の技術評価が可能な新生児・乳児の胸腹部を網羅的に包含する小児外科疾患型手術シミュレータの開発と検証」	1,500

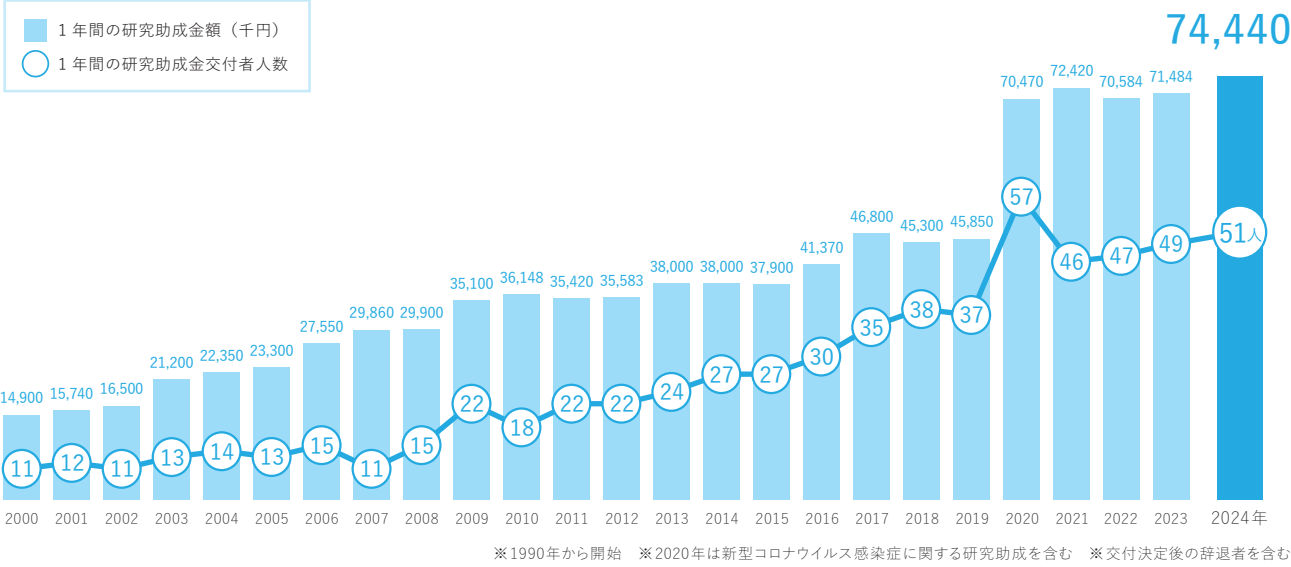
※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
田中 未央里	日本財団母乳バンク事業部研究室「早産児の壊死性腸炎予防を目指した母乳中ヒトミルコオリ糖調節機構の解明」	1,000

大和 玄季	群馬大学医学部附属病院小児科「ゲノムワイドDNAメチル化解析による小児急性骨髄性白血病の予後層別」	1,000
伊師 雪友	北海道大学病院脳神経外科「疾患特異的iPS細胞を用いた神経線維腫症2型における腫瘍特異的表面抗原の同定」	1,000
益田 紗季子	北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野「パーチェット病の口腔潰瘍の原因となる唾液の好中球細胞外トラップ誘導活性の低下とその機序」	1,000
石村 亮輔	順天堂大学医学部生理学第二講座「UFM1システムの異常による遺伝性小児脳症発症メカニズムの解明」	1,000
野口 和寛	金沢大学附属病院小児科「難治性未分化大細胞リンパ腫に対するSPI1遺伝子を標的とした新規治療薬開発」	1,000
宮下 聡	国立精神・神経医療研究センター神経研究所・病態生化学研究部「てんかん発症機構解明のための双方向トランスレショナルリサーチ」	1,000
大西 峻	鹿児島大学病院小児診療センター小児外科「新生児外科疾患における中枢神経発達改善の治療のターゲットとしての腸内細菌叢の解明と新たな治療法の創出」	1,000
鎌 裕一	東海大学医学部基礎医学系生体防御学「ヘルパーT細胞サブセット特異的なRUNX転写因子の機能解明と小児免疫関連疾患に対する新規治療ターゲット分子の探索」	800
磯崎 春菜	関西医科大学脳神経外科学講座「脊髄髄膜瘤の予防に向けた責任遺伝子の解明」	800
長野 綾香	鹿児島市立病院小児外科「腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術：LPEC法（Laparoscopic Percutaneous Extraperitoneal Closure）の疾患特異的シミュレータ開発」	800
佐藤 裕範	千葉大学医学部附属病院臨床研究開発推進センター「高深度次世代プロテオミクスを用いた好酸球性消化管疾患の非侵襲的バイオマーカー分子の探索」	800
中金 瞬	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科循環制御内科学分野「小胞体選択的オートファジーの活性制御によるアドリアマイシン心筋症の新規治療開発を目指した研究」	800

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

これまでの実績 [研究者に対する研究助成金と交付者の推移]



2 奨学金給付

子どもたちの未来を支える若い力を応援



昨今の物価高騰により学生の経済的な不安も増えています。2024年度は過去最多となる33名の応募があり、選考委員および理事長による審査の結果、新規16名の医学生に対する給付を決定しました。継続21名と合わせて計37名の医学生へ、総額30,840千円を給付しました。2024年9月7日にはヤオコー本社にて、奨学生証書授与式を開催しました。



奨学生に贈られる箱



奨学生証書授与式の様子

給付者大学一覧

■ 新規給付16名

大学名	人数	年間給付額(千円)
岩手医科大学	1	840
北里大学	1	840
神戸大学	1	840
埼玉医科大学	1	840
昭和医科大学	2	1,680
千葉大学	1	840
東京女子医科大学	1	840
東北大学	1	840
新潟大学	1	840
日本医科大学	1	840
弘前大学	1	840
福島県立医科大学	1	840
三重大学	1	840
山口大学	1	840
琉球大学	1	600
※五十音順	小計	13,200

■ 継続給付21名

大学名	人数	年間給付額(千円)
大分大学	2	1,680
杏林大学	1	840
慶應義塾大学	1	840
国際医療福祉大学	1	840
埼玉医科大学	1	840
滋賀医科大学	3	2,520
順天堂大学	2	1,680
昭和医科大学	1	840
東京医科大学	1	840
東京女子医科大学	2	1,680
東北医科薬科大学	1	840
東北大学	1	840
獨協医科大学	2	1,680
日本大学	1	840
北海道大学	1	840
※五十音順	小計	17,640
新規・継続給付合計		30,840

さまざまなバックグラウンドを持つ奨学生

＼過去最多／
2024年度決定

16名



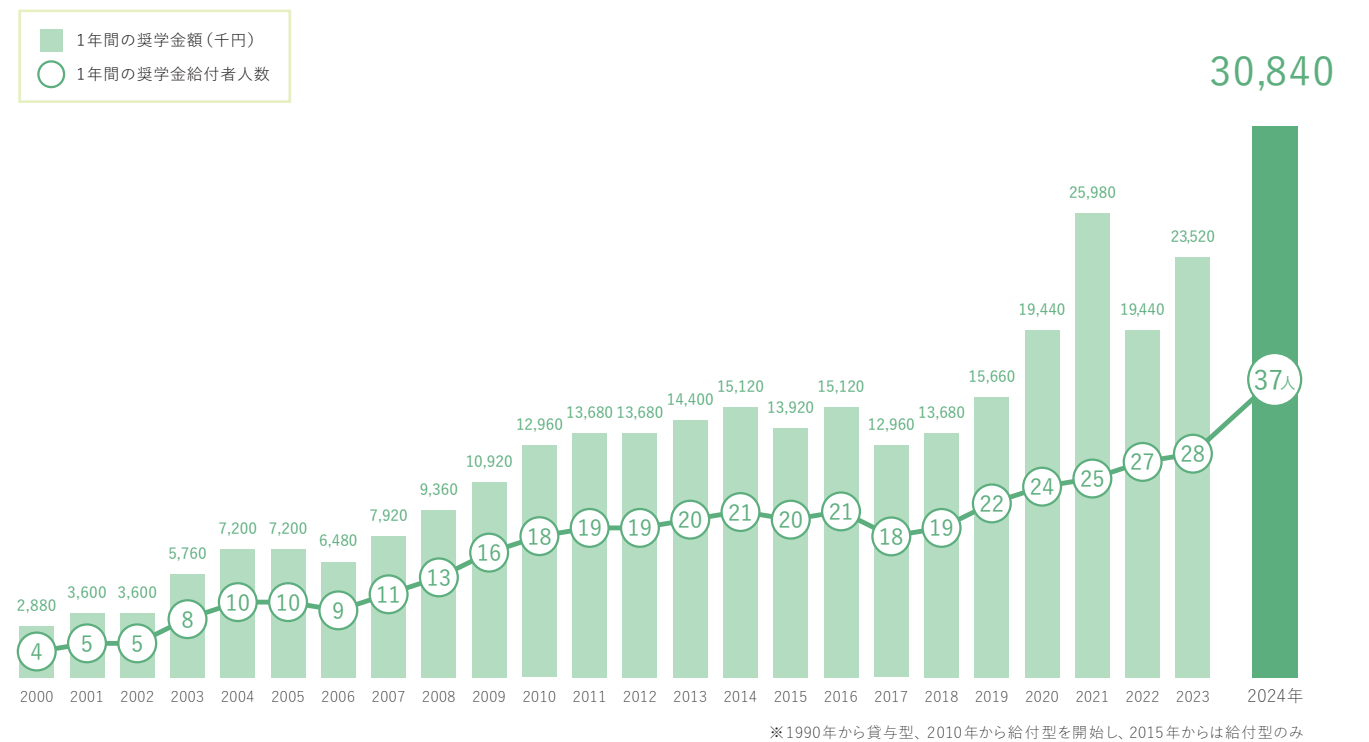
土屋 花優さん
昭和医科大学医学部医学科5年

当財団の奨学金事業は、応募資格を満たしていれば学年や年齢、経歴は問いません。2024年度は、さまざまな経験や想いを持つ奨学生が集まりました。他の学部から医学部へ編入をした方や、一度他の仕事を経験してから医学の道へ進む事を決めた方、子育てをしながら医師を志した方など。それぞれの状況は違いますが、小児医学への熱い志はみな共通しています。

＼奨学生から決意の声が届きました／

私は医学部に入る前、看護師として大学病院で働いていました。働く中で、医師の不足から地域医療が充実していないことを実感し、医学部進学を決意しました。特に興味があるのは小児科です。きっかけは病院実習でご指導いただいた先生の「未来のある子どもが元気になっていく姿をみるのが嬉しい」という言葉です。多くの方々に支えられていることに感謝し、患者さんやご家族に寄り添うことのできる理想の医師になれるように努力していきたいと思います。

これまでの実績 [医学生に対する奨学金と給付者の推移]



3 小児医学川野賞

受賞者の多くが小児医学界をけん引する存在として活躍



小児医学の発展のために、今後の小児医学界をリードする存在の輩出は重要です。2024年度は基礎医学5名・臨床医学11名・社会医学4名の応募があり、選考委員会の結果、3名の研究者に小児医学川野賞を贈呈しました。2025年3月1日には都内会場にて、贈呈式および記念講演会を開催しています。

受賞者一覧

分野	氏名	所属機関	研究テーマ
基礎医学	鳴海 覚志	慶應義塾大学医学部小児科学教室	先天性内分泌疾患の分子病態の解明
臨床医学	佐藤 義朗	名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門	新生児 / 小児難治性疾患に対する幹細胞療法 / 再生医療の開発
社会医学	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センターグローバルヘルス指標・評価研究科	子どもの発達とメンタルヘルスに関する社会疫学研究

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

受賞者コメント

基礎医学 鳴海 覚志 先生

7年ぶりに大学に復帰し、学生や若手医師に研究を行うことの意義を伝えています。専門医資格を取得し、標準的診療のスキルを獲得することだけが医師人生ではありません。1年後、10年後、100年後の医療がよりよくなっているように・・・研究で世界を変える仲間を1人でも増やしたいと思っています。



臨床医学 佐藤 義朗 先生

このたび、小児医学川野賞という名誉ある賞を受賞し、大変光栄に存じます。新生児 / 小児疾患に対する幹細胞療法の研究を評価いただき、深く感謝申し上げます。本研究が新たな治療法の実現と患者の予後改善に貢献できるよう、今後も尽力してまいります。



社会医学 細澤 麻里子 先生

臨床医としての経験から子どもが心身ともに健やかに成長発達してゆける成育環境に関心を持ち社会疫学研究を進めてきました。このような栄誉ある賞をいただけて心より嬉しく存じます。今後も人と環境の相互作用を踏まえた疫学研究を続け、子ども達の生涯にわたる健康とウェルビーイングを支援してゆきたいと思います。



これまでの受賞者

回 / 年度	分野	氏名	所属機関
第 6 回 2005年度	基礎医学	伏木 信次	京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学
第 7 回 2006年度	基礎医学	大橋 十也	東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所遺伝子治療研究部・同小児科
	臨床・社会医学	夏目 長門	愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第 8 回 2007年度	基礎医学	峯岸 克行	東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学
	基礎医学	塚原 宏一	福井大学医学部附属病院小児科
	臨床・社会医学	山高 篤行	順天堂大学医学部小児外科
第 9 回 2008年度	基礎医学	金子 英雄	岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター
	臨床・社会医学	小崎 健次郎	慶應義塾大学医学部小児科学教室
第 10 回 2009年度	基礎医学	深尾 敏幸	岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学
	臨床・社会医学	高橋 幸利	静岡てんかん・神経医療センター臨床研究部
第 11 回 2010年度	基礎医学	先崎 秀明	埼玉医科大学国際医療センター総合周産期母子医療センター小児循環器部門
	臨床・社会医学	海老澤 元宏	相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部
第 12 回 2011年度	基礎医学	下澤 伸行	岐阜大学生命科学総合研究支援センターゲノム研究分野
	臨床・社会医学	川崎 幸彦	福島県立医科大学小児科
第 13 回 2012年度	基礎医学	福田 誠司	島根大学医学部小児科学
	臨床・社会医学	加藤 光広	山形大学医学部附属病院小児科
第 14 回 2013年度	基礎医学	滝田 順子	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学小児科
	臨床・社会医学	浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター
第 15 回 2014年度	基礎医学	滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野
	臨床・社会医学	高橋 謙造	帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第 16 回 2015年度	基礎医学	田島 敏広	自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科
	臨床・社会医学	家入 里志	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野
第 17 回 2016年度	基礎医学	北中 幸子	東京大学大学院医学系研究科小児医学講座
	臨床・社会医学	野津 寛大	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第 18 回 2017年度	基礎医学	竹田 誠	国立感染症研究所ウイルス第三部
	基礎医学	深見 真紀	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部
	臨床・社会医学	森岡 一朗	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
第 19 回 2018年度	基礎医学	道上 敏美	大阪母子医療センター研究所環境影響部門
	臨床・社会医学	酒井 康成	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野小児科学
第 20 回 2019年度	基礎医学	川井 正信	大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門／消化器・内分泌科
	臨床医学	武内 俊樹	慶應義塾大学医学部小児科
	社会医学	頼藤 貴志	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野
第 21 回 2020年度	基礎医学	安友 康二	徳島大学大学院医歯薬学研究部（医学域）
	臨床医学	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
	臨床医学	笠原 群生	国立成育医療研究センター臓器移植センター
第 22 回 2021年度	基礎医学	鏡 雅代	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部臨床内分泌研究室
	臨床医学	難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科
	社会医学	森崎 菜穂	国立成育医療研究センター社会医学研究部
第 23 回 2022年度	基礎医学	三宅 紀子	国立国際医療研究センター研究所疾患ゲノム研究部
	臨床医学	小林 徹	国立成育医療研究センター臨床研究センターデータサイエンス部門
	社会医学	岡田 あゆみ	岡山大学学術研究院医歯薬学域（小児医科学）
第 24 回 2023年度	基礎医学	岡田 賢	広島大学大学院医系科学研究科小児科学
	臨床医学	菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院小児外科学
	社会医学	竹内 章人	岡山医療センター新生児科・小児神経内科

※2000年度から開始 ※敬称略・所属機関は受賞時の機関

開催レポート

2024年度助成研究成果発表会・川野賞贈呈式および記念講演会

当財団では、助成や表彰をした研究者に研究の進捗や成果を発表いただくとともに、その功績を称え、研究者同士のつながりをつくるため、毎年3月に本イベントを開催しています。2024年度は、2025年3月1日に都内会場にて開催いたしました。当日は小児医学川野賞の受賞者、研究助成一般枠採択者、奨学生および一般の参加者など、約60名がご参加くださいました。

助成研究成果発表会

2024年度研究助成一般枠採択者25名が、それぞれの研究の目的や意義、成果について発表を行いました。発表後の質疑応答の時間では、研究者同士で活発な意見交換がされました。



発表を聞く参加者の様子

川野賞贈呈式および記念講演会

2024年度小児医学川野賞の受賞者3名へ、トロフィーと賞状、賞金100万円の贈呈が行われました。贈呈後は、受賞記念講演として基礎医学・臨床医学・社会医学の3分野につき、各受賞者が研究の成果と今後の方向性などについて講演を行いました。



受賞者と理事長の記念撮影

交流会

当財団の奨学生や一般の参加者の皆さまを交え、研究者との交流会を実施しました。受賞記念講演や研究成果発表をうけての意見交換や、共通の研究分野を持つ研究者同士の交流、また奨学生が研究者へ質問する場面などがみられました。



交流会での研究者の様子

参加した発表者の声

私は基礎研究者なので、現場で働かれている臨床医の先生方の研究を拝見することができたのがとても良かったです。この度は研究奨学支援・発表の機会をいただいたこと、また他研究者の発表を拝聴できる有意義な時間を過ごすことができたことに感謝いたします。

小児医学を盛り上げるために全国各地で頑張っておられる同志の姿を見られたことも大変刺激になりました。いただいた有形無形のご支援へのご恩を忘れずに、研究と後進育成に引き続き尽力して参ります。

4 医学会助成

小児医学の中でも各分野の専門性を高める活動をサポート

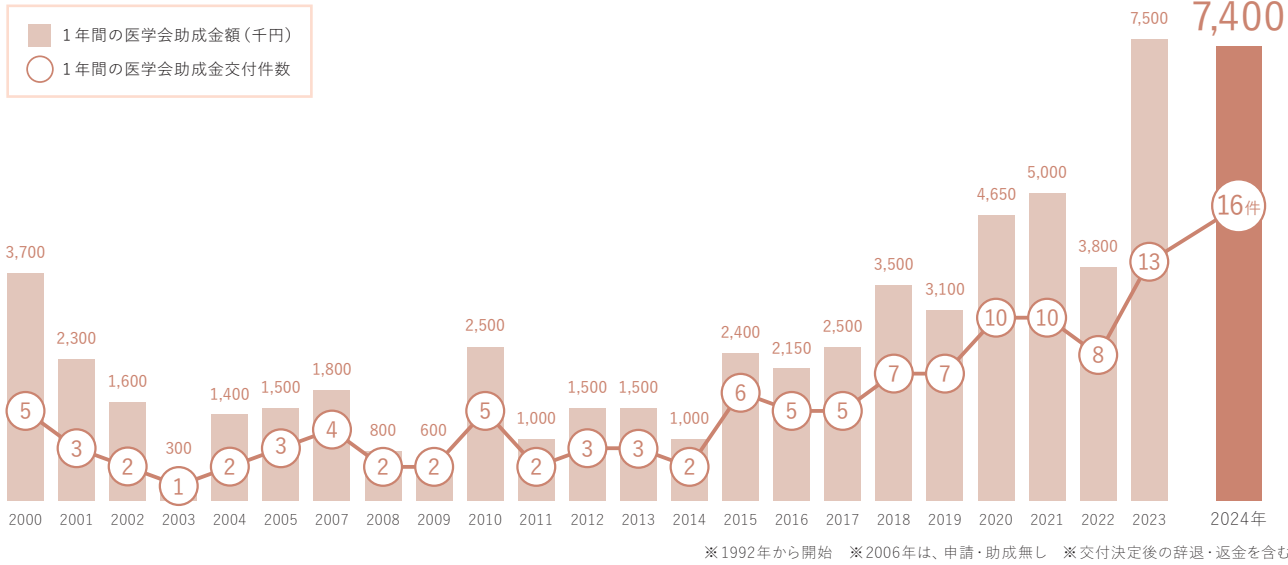


日々アップデートされる知識や技術の共有のために、年間多くの医学会が開催されています。2024年度は17件の応募がありました。選考委員による審査の結果、16件の医学会に対して総額7,400千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第25回日本ロービジョン学会学術総会	2024年5月24日(金)～26日(日)	埼玉会館	500
第61回日本小児外科学会学術集会	2024年5月29日(水)～31日(金)	ヒルトン福岡シーホーク	700
The 23rd Annual Meeting of Infantile Seizure Society	2024年5月30日(木)～6月1日(土)	名古屋国際会議場	200
第59回日本小児腎臓病学会学術集会	2024年6月7日(金)～8日(土)	福岡国際会議場	700
第35回日本小児科医会総会フォーラム	2024年6月8日(土)～9日(日)	ソニックシティ	700
第71回日本小児保健協会学術集会	2024年6月21日(金)～23日(日)	ロイトン札幌	700
第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	2024年7月10日(水)～12日(金)	水戸市民会館	500
第35回日本夜尿症・尿失禁学会学術集会	2024年7月27日(土)～28日(日)	ステーションコンファレンス東京	200
日本小児麻酔学会第29回大会	2024年8月31日(土)～9月1日(日)	グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)	700
第56回日本小児呼吸器学会学術集会	2024年9月20日(金)～21日(土)	浦安ブライTONホテル東京ベイ	200
第42回日本小児心身医学会学術集会	2024年9月20日(金)～22日(日)	国立オリンピック記念青少年総合センター	600
第13回日本小児禁煙研究会学術集会	2024年9月22日(日)	社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院	200
第33回日本小児心筋疾患学会と 第43回日本小児循環動態研究会の合同学術集会	2024年10月26日(土)～27日(日)	倉敷市民会館	200
第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	2024年11月22日(金)～23日(土)	ソニックシティ	300
日本子ども虐待防止学会第30回学術集会かがわ大会	2024年11月30日(土)～12月1日(日)	サンポートホール高松	700
第8回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会	2025年2月14日(金)～15日(土)	京都大学百周年時計台記念館	300
※開催日順			合計
			7,400

これまでの実績 [医学会に対する助成金と交付件数の推移]



5 小児医療施設支援

入院中の子どもたちに居心地のよい環境を

入院中・入所中の子どもたちの環境を整える資金不足に悩む小児医療施設は少なくありません。2024年度は21件の応募があり、選考委員による審査の結果、過去最多となる21件の小児医療施設に対して総額約2,920千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

施設名	使 途	助成金額(円)
カリヨンの杜	マット・子ども用テーブル椅子セット	149,710
カルガモの家	グラビティチェア(座位保持装置)	150,000
行徳総合病院	本棚・キッズコーナークッション・DVDプレーヤー内蔵テレビ	143,590
熊谷総合病院	絵本・DVDプレーヤー・DVD・トレーニング用遊具・絵カード・パズル	134,751
国保直営総合病院君津中央病院	ジョイントタミ	150,000
埼玉医科大学総合医療センター	フライト・シミュレーター使用料	150,000
さいたま市民医療センター	玩具・スヌーズレン用品・プレパレーション用玩具・テレビ	149,964
下志津病院	プロジェクター	115,500
順天堂大学医学部附属浦安病院	玩具・絵本・図鑑・漫画・DVD・iPad・歩数計玩具	149,976
総合病院国保旭中央病院	木製玩具・色鉛筆・シール・ぬりえ・図鑑・プラネタリウム・ベビーチェア	120,962
千葉愛友会記念病院	玩具・絵本・絵本ラック・子供部屋カーテン・DVDプレーヤー内蔵テレビ・DVD・壁紙シール	139,640
千葉県千葉リハビリテーションセンター愛育園	Nintendo Switch・ゲームソフト	135,896
千葉市桜木園	スヌーズレン用品	143,000
千葉市立海浜病院	プロジェクター・三脚スタンド・スクリーン・DVDドライブ・DVD	141,467
千葉東病院	ミラーレスカメラ・AV アダプタ・SD カード	145,090
土屋小児病院	玩具・DVDプレーヤー・DVD・絵本ラック	142,289
東京ベイ・浦安市川医療センター	玩具・行事用物品・DVDプレーヤー・DVD	146,696
戸田中央総合病院	玩具・絵本・DVD・本棚・ジョイントマット・ベビーチェア	121,851
西埼玉中央病院	玩具・絵本・DVDプレーヤー・ブレイルームフロアマット	148,627
光の家療育センター	知育玩具・絵本	122,030
南平野クリニック	カーシート・絵本	118,795
※五十音順	合計	2,919,834

訪問して知った小児科の課題と子どもたちへの想い



入院病棟内の様子



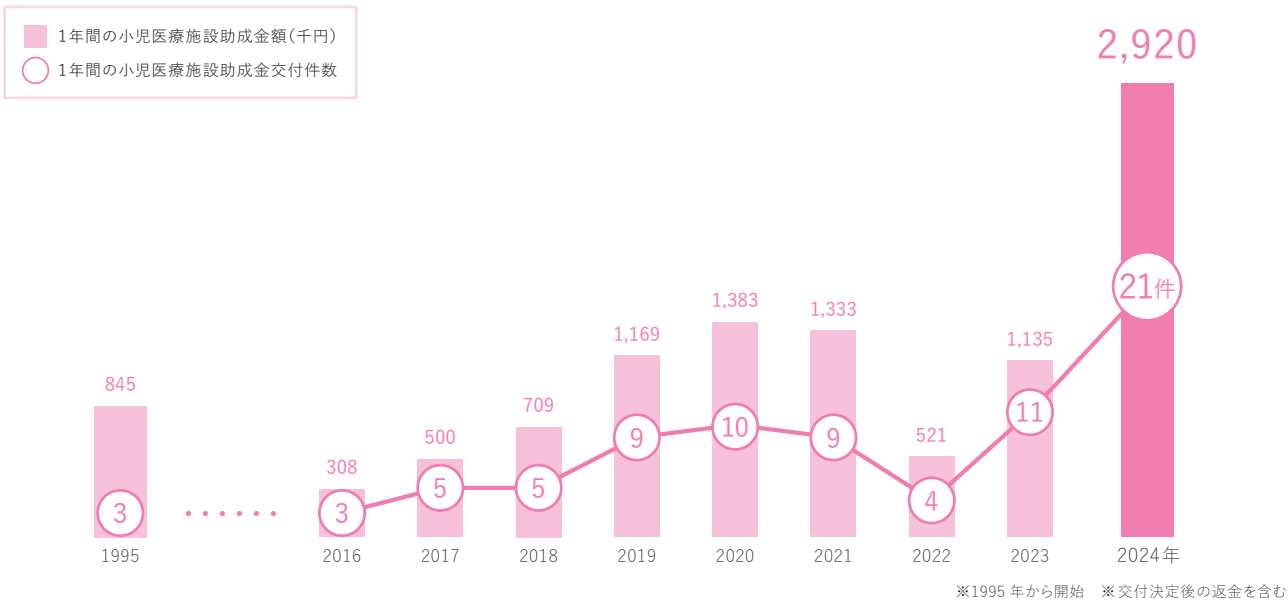
助成金で購入されたおもちゃ

2024年度は、過去に助成金を交付した小児医療施設を訪問する機会がありました。どの医療施設からもフロアに入るだけで子どもたちの安心感や楽しみをつくろうとする気持ちが伝わってきました。現場のスタッフの皆さまより「子どもたちのために購入したい物品があっても、購入するお金が不足している」というお話を伺いました。大きな病院であっても、小児科には十分な予算を割けないケースがあるようです。子どもの診察や処置には人手が多く必要となることに加え、少子化で患者が少ないことなどが一因となっています。訪れた医療施設の多くは、たとえ経営的に不採算であっても子どものために寄り添ったケアを目指されており、本助成金が少しでも課題解決へつなげればと考えています。

担当職員のコメント

どの施設においても、医師や看護師、病棟保育士、その他のスタッフの方々の子どもの安心と楽しみを一番に想う気持ちに感動しました。

これまでの実績 [小児医療施設に対する助成金と交付件数の推移]



6 ドクターによる出前セミナー

保育・教育現場と一緒に子どもの健康を守る



養護教諭や看護師が医師から直接学ぶ機会は貴重で、本セミナーへの注目は年々高まっています。2024年度は養護教諭向け13件・看護職向け3件のお申し込みがありました。選考委員による審査の結果、14件に対して講師派遣を決定しました。子どもの心に関する問題については講演の希望が多く合同開催とし、計13件の研修会を実施しています。

■ 講師インタビュー



「人権」をベースに 自分も相手も大切にする 性教育の重要性

あいち小児保健医療総合センター
総合診療科

森 重智 先生

ココカラウィメンズクリニック
院長

伊藤 加奈子 先生

先生たちが取り組んでいる 「包括的性教育」とは？

（森）「人権」をベースにした性教育のことで、国際的なガイダンスでは年長に当たる5歳児くらいから行うことが大切だとされています。幼稚園や保育園では「自分の体も相手の体も大事だね。お互いの違いを認め合おうね」という価値観を伝えます。これは性のことだけでなく、多様性を認めないことから生じるいじめや不登校などで悩む子どもを減らすことにもつながると思っています。

（伊藤）産婦人科医の立場から見ても、今こそ、子どもたちに小さい頃から人権に基づいた教育を行うことは重要だと考えています。これまでの日本では、日常の中で起こっていた暴力・性暴力を社会全体的に見て見ぬふりをしたり他人事とするようなことが多くありました。しかし、今やっと社会の中で問題視され多くの被害が浮き彫りになってきています。そういった状況だからこそ、暴力・性暴力の予防に重要な包括的性教育がますます必要とされていると感じます。

セミナーで養護教諭の皆さんに 特に伝えたかったことは何ですか？

（森）学習指導要領という国の指針があり、性に関する指導にも一部制限があります。そのため、教えることを躊躇する先生が多いと思いますが、生徒の状況に沿ったかたちで怖がることなく教えてほしいとお伝えしました。ノウハウではなく、人権という誰もが生まれながらに持っているものをベースとした包括的性教育をお願いしたいと思います。

（伊藤）子どもを見守りSOSを受け取る側の大人のほとんどは包括的性教育を学んできていません。だからこそ、先生たちには「まずは自分自身の知識をアップデートして正しい情報を得ることが大切。しっかり学び直しをしてもらいたい」とお伝えしました。

今後、教育現場と一緒に 考えていきたいことを教えてください。

（森）実際のカリキュラムの中で何ができるかを考えるなど、より教育現場に踏み込んでいきたいですね。現場

にはさまざまなハードルがあると思いますから、現実的な目線で、一緒に作り上げていければと思っています。（伊藤）森先生の言うように、適したカリキュラムが全国の学校で導入できるように、まずはモデル校となる

■ 受講者インタビュー



あらためて気付かされた 養護教諭としての使命感と 学び続けることの大切さ

熊谷市立奈良小学校 養護教諭

長谷川 紀子 先生

熊谷市立富士見中学校 養護教諭

根岸 幸代 先生

子どもを取り巻く性の問題について 教育現場で感じることは何ですか？

（長谷川）小学生では4つあります。ネットを通じて性に関する情報が溢れていること。SNSなどを通して性被害・性加害につながるような行動をしてしまう児童がいること。嫌なことを嫌と言える児童が少ないということ。そして、性に関することがからかいの対象になり、「恥ずかしいこと」と捉えている児童が増えていることです。それらに対して、子どもの発達段階に応じて対応するようにしています。

（根岸）私は中学校の養護教諭ですが、生徒はネットを使って情報収集することが普通となって、何が正しいかがわからないまま色々なことを知っている状況を感じます。見ていてとても危なっかしいですね。特に性的な情報への関心については低年齢化していると感じます。

セミナーを受けてみて どんな気づきがありましたか？

（長谷川）包括的性教育という言葉は知っていましたが、詳しいことは知りませんでした。今までは体や発達のことに目を向けがちでしたが、「自分も相手も大

ような実例をつくっていききたいです。理想としては、幼稚園・小学校・中学校、可能であれば高校まで通したものがいいですね。長い年数がかかると思いますが、10年かかってでもやりたいと考えています。

切で、守らないといけない存在である」という人権の話が土台にあって初めて性教育が成り立つのだと思いました。

（根岸）思っている以上に性被害や性暴力の件数が増えていることと、医学的な見地から現在の課題や最新情報を聞くことができました。養護教諭として生徒と話すためにも、もっと勉強や情報をリサーチしないといけないと感じています。

セミナー後に意識して 変えた行動はありますか？

（長谷川）自分自身の多様性に関するバイアスを見直し、子どもたちに対する言葉遣いに気をつけるようになりました。また、性教育を慎重に考える保護者や職員には、まず養護教諭から性教育の大切さを伝えていきたいと思っています。

（根岸）現場ではどうしても学習指導要領の内容が基本になりますが、外部から講師に来てもらう場合には、性的同意や望まない妊娠など現実的な問題に触れてもらうようにしています。生徒たちにとって、性について考える機会になればと思っています。

開催一覧

実施日	テーマ「演題」	講 師	受講者数 実施形式	主催者
2024年 7月2日(火)	保健室での救急処置 「こんな時どうする？」	医療法人越魂会かわごえファミリークリ ニック 理事長 浅野祥孝先生	約 75 名 オンライン	郡山市立学校教職員研 修「養護教諭等研修」
2024年 7月25日(木)	子どもの心に関する問題 「不登校の理解と支援 ～本当は学校に 行きたい子どもたち」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授 宮本信也先生	約 55 名 オンライン	新座市養護教諭研修会／ 児玉郡本庄市養護教諭 研究会保健主事研究会 合同研修会【合同開催】
2024年 7月26日(金)	保健室での救急処置 「学校と応急措置」	埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士 安齋勝人先生	約 25 名 オンライン	戸田市養護部会 オンライン研修会
2024年 7月31日(水)	子どもの心に関する問題 「子どものこころの健康 -ウェルビー ングとレジリエンスの視点から-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 30 名 オンライン	坂戸市養護教諭・ 保健主事合同研修会
2024年 8月22日(木)	性教育 「こどもたちの成長発達に合わせた切 れ目のない包括的性教育指導を一緒 に考えましょう。=性暴力・差別のない 社会実現をこどもたちのために=」	あいち小児保健医療総合センター 総合診療科 森重智先生 ココカラウィメンズクリニック 院長 伊藤加奈子先生	約 45 名 オンライン	熊谷市養護教諭部 夏季研修会
2024年 8月26日(月)	保健室での救急処置 「慢性疾患のあるこどもたちが笑顔で 過ごす学校創り」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授 是松聖悟先生	約 35 名 オンライン	春日部市養護教諭部会 夏期研修会
2024年 9月4日(水)	子どもの心に関する問題 「子どものこころの健康 -ウェルビー ングとレジリエンスの視点から-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 25 名 対面	三鷹市小・中学校教育 研究会 学校保健研究部
2024年 11月26日(火)	子どもの心に関する問題 「子どものこころの健康 -ウェルビー ングとレジリエンスの視点から-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 80 名 オンライン	川口市教育研究会 健康教育研究部研修会
2024年 12月3日(火)	保健室での救急処置 「こんな時どうする？」 「災害時に養護教員ができること」	医療法人越魂会かわごえファミリークリ ニック 理事長 浅野祥孝先生 埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士 安齋勝人先生	約 55 名 対面	川越市教育研究会 保健研究部研修会
2024年 12月12日(木)	子どもの心に関する問題 「子どものこころを支えたい ～学校 - 医療連携を考える～」	さいたま市民医療センター小児科 越野由紀先生	約 20 名 対面	行田市養護教諭研修会
2024年 12月16日(月)	ネット依存 「ICT化に伴う児童生徒の健康への影響 ネット依存症」	国立成育医療研究センター成育こどもシン クタンク 副所長 山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート 研究センター 特任教授 山縣然太郎先生	約 45 名 対面	幸手中学校区地域学校 保健委員会
2024年 12月16日(月)	園内・施設内での救急処置 「医療的ケア児が楽しめる保育園となる ために」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授 是松聖悟先生	約 40 名 オンライン	立川市公私立合同保健 会議
2025年 1月26日(日)	園内・施設内での救急処置 「慢性疾患を抱えた子供たちのケア ～先天性疾患を中心に～」	聖マリアンナ医科大学病院 小児集中治療科 医長 長田洋資先生	約 100 名 オンライン	全国保育園保健師看護 師連絡会

※開催日順 ※講師の所属先および役職は実施日時点のもの

2025年度中の募集について

2025年度は以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

募集概要（予定）



2025年度
小児医学川野賞

対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2026年3月31日時点で55歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕 彰	賞状、トロフィーおよび賞金 100 万円
募集期間	2025 年 8 月～10 月末頃予定



2025年度
小児医療施設支援

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 原則として埼玉県または千葉県の県内にある入院病棟を有する医療施設または 医療型入所施設 (2) 2024年度以降に当財団の「小児医療施設支援」事業で助成金を受けていないこと
助成内容	15 万円以内／件
募集期間	2025 年 8 月～10 月末頃予定



2026年度
医学会助成

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が 2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日であること
助成内容	70 万円以内／件
募集期間	2025 年 8 月～10 月末頃予定



2026年度
研究助成

対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、 臨床および社会医学的研究。ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学 研究に従事していること (2) 申請時かつ助成期間中も(1)を満たしていること (3) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (4) 2023 年度以降に当財団の「研究助成」事業で助成金を受けていないこと (5) 若手枠の場合は、2026 年 3 月 31 日時点で 40 歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉300 万円以内／件 〈若手枠〉100 万円以内／件
募集期間	2025 年 9 月～11 月末頃予定



2026年度
奨学金給付

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 身体が健康であり、気質および素行ならびに学業が良好である者 (2) 埼玉県または千葉県の県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または 医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生 (3) 学長、副学長、または学部長の推薦を受けている者 (4) 当財団の定める給付者の義務を果たすことができる者
給付内容	月額 7 万円以内
募集期間	2026 年 4 月～5 月中旬頃予定



2026年度
ドクターによる
出前セミナー

セミナーテーマや申込資格、申込方法については当財団ウェブサイトをご覧ください！

おわりに

私は1982年の秋に、当時小学校2年生だった長男の「正登^{まさのり}」を、
ウイルス性脳炎という病気で亡くしました。
いまもって信じられないほど、あっという間の出来事でした。
それまでの私は、仕事のことしか頭にありませんでしたから、
家族との生活の場は相当おろそかになっていたと思います。

正登が亡くなって、「あの子は、お父さんを求めている」と妻から聞かされ愕然としました。
そして、人の親としてあの子に何もしてやれなかったことを、
つくづく悔やみましたが、後悔は先に立ちません。
未だに正登には、本当に申し訳ないことをしてしまったと心で詫びている毎日です。
このような出来事が背景にあって、この川野小児医学奨学財団が設立されました。

申すまでもなく、子どもたちの無邪気な笑顔や素直な動作が世の中を明るくし、
私たち大人の心を和ませてくれます。
また、わが国や世界の将来を担ってくれるのも同じ子どもたちです。
そのかけがえのない大切な子どもたちが、明るく健やかに成長してくれることは、
親だけでなく等しくみんなの願いです。

日本においては小児医学・医療の劇的な進歩により、
新生児死亡率は世界でも一、二を争うほど低い状況になり、子どもたちの健康も増進されました。
しかし、時には正登のようなことも起こります。
また昨今では、医療的ケアを必要とする子どもや若年層の自殺者、児童虐待の増加など、
子どもを取り巻く問題が尽きることはありません。
当財団の使命は、どのような時代においても子どもたちの健やかな成長を実現することです。
そのために、これからも、多種多様な方々とともに一年一年歩んで参りたいと思います。
引き続き、あたたかいご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。

理事長

川野幸夫



ご寄附のご案内

子どもたちの健やかな成長を願って、ともに小児医学・医療の発展を支援してくださる皆さまからの
ご寄附をお待ちしております。大切なご寄附は、小児医学研究者への研究費支援や、
小児医学を志す医学生への奨学金給付などに使用させていただきます。

ご寄附の方法

- 1 以下のいずれかの方法にてお申し込みください。
 - ◆ 申込書（Word版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、
メール添付（PDF）・ご郵送・FAXのいずれかにて以下までお送りください。

メール添付の方	info@kawanozaidan.or.jp
ご郵送の方	〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1 公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局宛
FAXの方	049-246-7006
 - ◆ 申込フォーム（Webフォーム版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力の上、お申し込みください。
- 2 銀行等よりご寄附をお振り込みください。
- 3 受領証明書が必要な方にはご入金確認後、受領証明書・寄附控除のご案内をお送りいたします。

寄附金申込書

◆ 申込フォーム
（Webフォーム版）

◆ 申込書
（Word版）

寄附金にかかる税制上の優遇措置

- 当財団にご寄附いただいた方は税金の控除等、優遇措置が受けられます。
- | | |
|------|--|
| 個人の方 | ご寄附をされた翌年の確定申告時に当財団発行の受領証明書を添付し、
所轄の税務署等にご申告ください。 |
| 法人の方 | ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください。 |

沿革

1989(平成元)年	埼玉県 の認可を受け、財団法人川野小児医学奨学財団を設立
1990(平成2)年	研究助成および奨学金貸与事業を開始
1992(平成4)年	医学会助成事業を開始
1995(平成7)年	小児医療施設支援事業を開始
1999(平成11)年	財団設立10周年を記念して、小児医学川野賞を創設
2001(平成13)年	特定公益増進法人に認定
2007(平成19)年	研究助成事業に若手枠(40歳以下)を追加
2010(平成22)年	奨学金給付事業を開始
2012(平成24)年	公益財団法人に移行
2019(平成31)年	行政庁を埼玉県から内閣府に変更 財団設立30周年を記念して、ドクターによる養護教諭のための出前セミナー事業を開始
2021(令和3)年	奨学金給付事業の対象に千葉県内高校卒業者を追加 ドクターによる出前セミナー事業の対象に就学前教育・保育施設の看護職を追加
2022(令和4)年	小児医療施設支援事業の対象に千葉県内にある施設を追加



当財団のロゴマークは、理事長の長男が亡くなった時に流れたであろう涙の滴の形をベースとしています。同時に、その時から当財団が抱き続けている「小児医学に関わる多様な人々の支えにより、多くの子どもの明るく健やかな成長を実現したい」という想いをハートと点で表しています。

役員・選考委員一覧

[理 事]		[選考委員]	
理 事 長 川野 幸夫 株式会社ヤオコー 代表取締役会長		秋岡 祐子 埼玉医科大学病院小児科 教授、運営責任者・診療部長	
川野 光世 株式会社川野商事 代表取締役		■ 秋山 千枝子 医療法人社団千実会あきやま子どもクリニック 理事長	
吉野 芳夫 伊藤忠商事株式会社 理事		雨宮 伸 埼玉県立嵐山郷 参与 埼玉医科大学病院小児科 客員教授	
新井 一 学校法人順天堂 理事長補佐		岡 明 埼玉県立小児医療センター 病院長	
桃井 真里子 両毛整肢療護園 医師 自治医科大学 名誉教授		奥山 真紀子 山梨県立大学大学院人間福祉学研究科 特任教授 子どもの虐待防止センター 理事	
上池 昌伸 株式会社ヤオコー 専務取締役		加藤 則子 十文字学園女子大学教職課程センター 特別任用教授	
[監 事]		● 柊島 香代 文京学院大学人間学部 教授 学長補佐(教職課程改革担当) 教職課程センター長	
杉田 圭三 株式会社 CWM 総合経営研究所 取締役会長		■ 上池 昌伸 株式会社ヤオコー 専務取締役	
原 敏成 武州瓦斯株式会社 取締役社長		河合 佳子 東北医科薬科大学医学部生理学教室 教授	
[評議員]		河野 陽一 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 理事長	
川野 清巳 株式会社ヤオコー 相談役		濱田 洋通 千葉大学大学院医学研究院小児病態学 教授	
川野 澄人 株式会社ヤオコー 代表取締役社長		林 泰秀 群馬県立小児医療センター 顧問 上武大学医学生理学研究所 客員教授	
利根 忠博 株式会社埼玉りそな銀行 元会長・社長 埼玉県民共済生活協同組合 理事長		■ 南野 奈津子 東洋大学福祉社会デザイン学部 教授 一般財団法人健やか親子支援協会 理事	
村井 満 公益財団法人日本バドミントン協会 会長		桃井 真里子 両毛整肢療護園 医師 自治医科大学 名誉教授	
高篠 包 高篠・柿沼法律事務所 弁護士		山縣 然太朗 国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク 副所長 山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート研究センター 特任教授	
豊田 友康 株式会社メディopalホールディングス 監査役 株式会社店舗プランニング 顧問		● 山崎 章子 埼玉県立浦和高等学校 養護教諭 埼玉県養護教諭会 顧問	
		■ 余谷 暢之 国立成育医療研究センター 総合診療部緩和ケア科 診療部長・成育こどもシンクタンク戦略支援室 室員	

※敬称略・順不同

2025年6月20日現在
発行日:2025年7月11日 発行人:川野紘子 アートディレクション:古谷萌 デザイン:五十嵐淳子
撮影:荒井隆之(P12 P14 P16)、山本あゆみ(P1-7 P20-21) 取材・執筆協力:glassy&Co.・志村江(P5-6 P20-21)



川野正登記念 公益財団法人

川野小児医学奨学財団

〒350-1124

埼玉県川越市新宿町 1-10-1

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp

Facebook



Instagram



「Climb」というタイトルは、財団設立のきっかけとなった
正登(まさのり)さんの名前にちなんでつけられました。